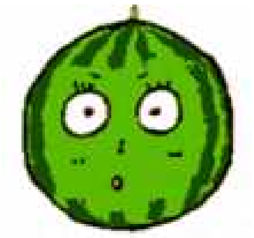
八色西瓜通信　No.7



～交配と前後の管理～

令和６年６月６日
八色西瓜生産組合指導部
ＪＡみなみ魚沼園芸畜産課
南魚沼農業普及指導センター

【生育状況等】

○4月4半旬定植は交配中、4月5半旬定植は交配開始、5月1半旬定植は2番花（交配する雌花の1つ前）が開花中、3番花（交配する雌花）がつぼみの状態。

→降雨があってもマルチ内は意外と乾いています。交配５日前と交配後７～１０日以内にしっかりとかん水し、雌花の充実と玉肥大を促進しましょう。

○密閉栽培は5月末から除覆開始。5月下旬の低夜温の影響で、両性花の発生が見られます。

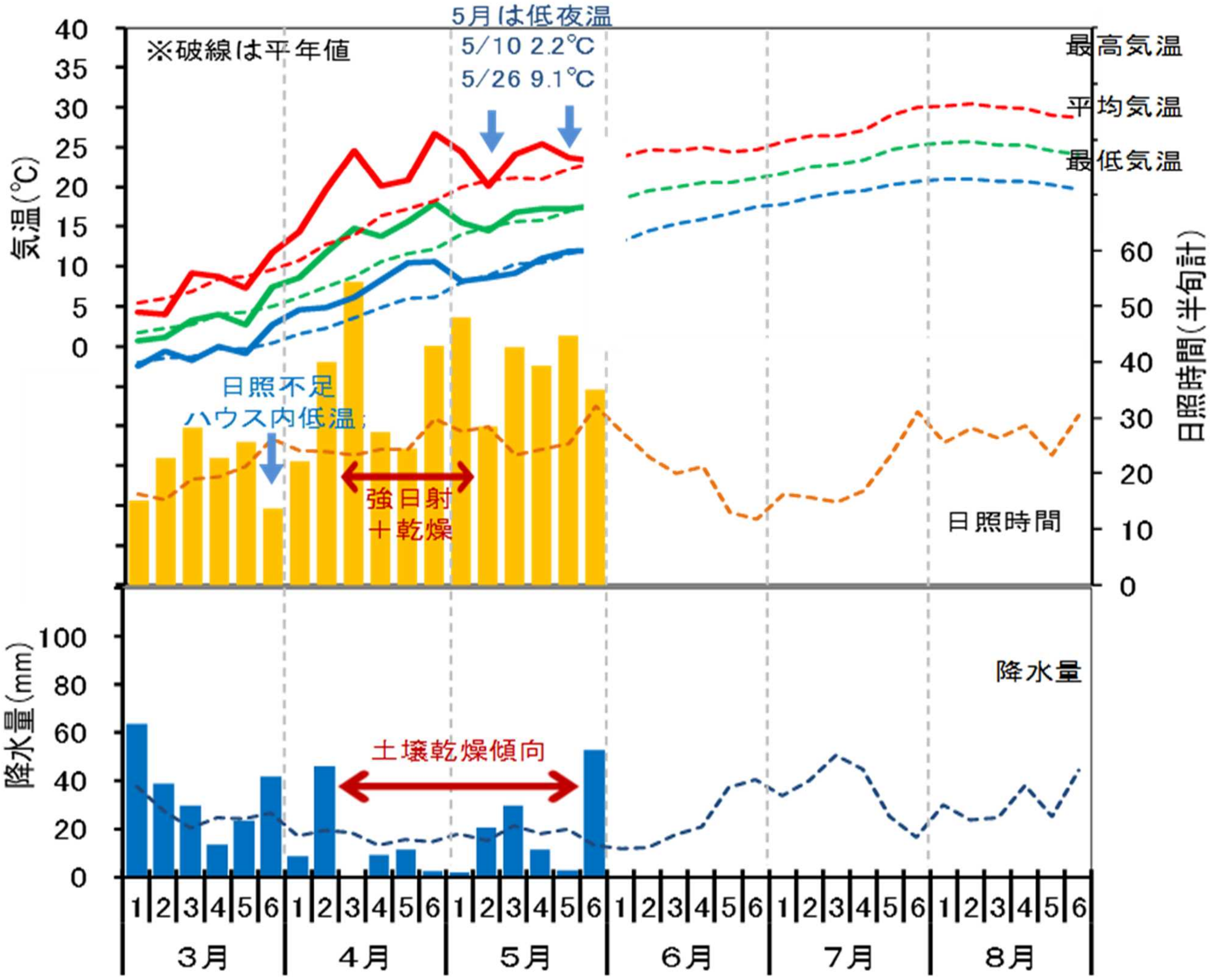
→花質を確認し、状況によっては着果位置を変更してください。

○除覆やつる引きで、トンネル外に茎葉が出る時期になりました。

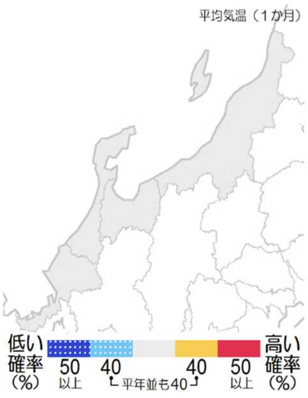
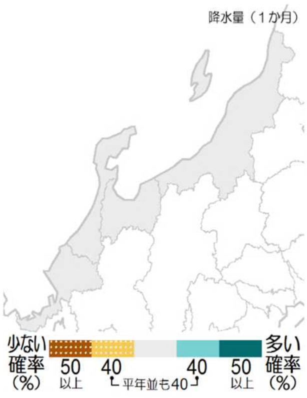
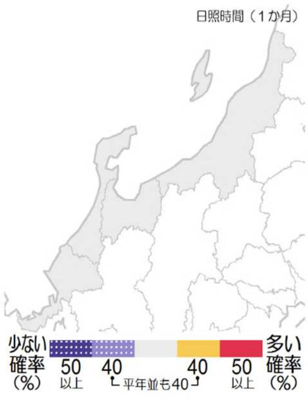
→定期防除を開始しましょう。

【5月までの気象推移】

南魚沼市城内開発センター(標高170m)の気象推移



【1か月予報（6月)】5/31 気象庁HPより

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北陸地方	低30 並**40** 高30% **ほぼ平年並**の見込み	少**40** 並30 多30% **ほぼ平年並**の見込み	少30 並30 多**40%** **ほぼ平年並**の見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

交配する雌花は3～4番花

○子づる 20 節前後の3～4番目の雌花で交配します。

・下位節（2番）は摘果してください。

→ほとんどが自然落果しますが、着果する場合があります。残すと、本命の3～4番が着果しづらくなります。

・交配に入ったら、交配時以外、つる先には触らないこと。

【開花周期】

・雌花が咲く間隔は約5節（葉）ごと、開花周期は4～5日（±２日）。

・２～３番雌花の5～6節（葉）先に、３～４番の雌花が開花。

→1節（葉）で約 10 ㎝節間が伸びるので、２～３番雌花から 50～70 ㎝先に、３～４番雌花が開花します。

【良質な雌花とは】

・花梗がつり針状に湾曲し、花の着生がつるより高い位置になります。

【花粉の能力（花粉の発芽率）と量】

・開花当日の気温が高く、晴天ほど、花粉能力が高まり、量も多くなります。

・花粉形成期（開花 10～14 日前）に日照不足や低温が続くと、葯（花粉が入っている部分）が小さく、量が少なくなります。

良い雄花：葯が大きい

不良な雄花：葯が小さい

交配作業は午前中に！
作業前に花粉が出ているか確認

○交配は必ず午前中に行いましょう。
（午前が最も受精能力が高い＝着果安定）
○夜温や湿度により、交配開始の時間は変化します。

花粉が出ているか、触って確認してから作業開始しましょう。

夜温

高い→開花時間は早い
低い→開花時間は遅い
・最低夜温 12℃以上で順調に開花

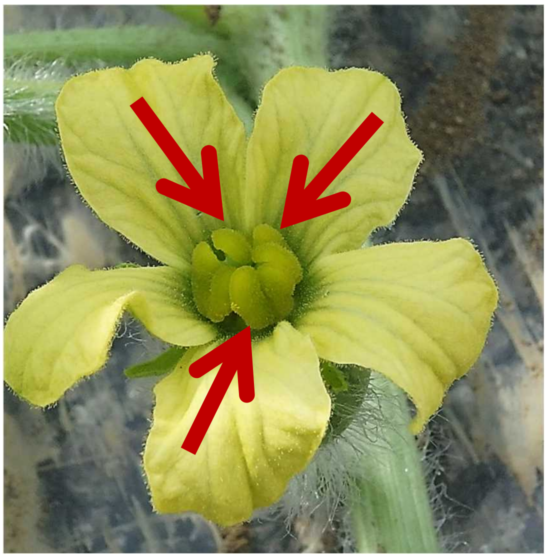
湿度

低い→花粉が出やすい
高い→花粉が出にくい
※雄花は、湿度が高いと開花していても花粉が出ていない場合があります。
必ず、触って花粉が出ているか確認！

交配作業の手順

①柱頭(めしべ)全体にまんべんなく花粉をつけます。

・柱頭は大まかに3ブロックに分かれています。各ブロックに花粉がつくよう意識しましょう。
（花粉が偏ると、変形果になります）



・花粉が多い時
→雄花1個で雌花3個程度を交配できる
・花粉が少ない時
→雄花数個がかりで雌花1個という時もある
※今年は5月下旬の低温の影響で、花粉が少ない可能性あり

葯は脇から割れて花粉が出てくるので、雄花は斜め横向きで雌花に当てるとよい

②交配したら、着果棒を立てます

・２日ごとに着果棒の色を変えます。
・交配開始日と色の順番を忘れないよう、記録しておきましょう。

改良整枝栽培　交配前後の管理

①最終つる引き

・交配花の位置が、マルチの中心～ややつる先側に来るよう、つるを引き戻します。
・トンネル内が混まないように、株元の孫づるはトンネル外へ出します。
・トンネル内の混んでいる孫づるは摘心します。
（雌花に孫づるが被さりすぎないように）

②雌花の充実のため、保温とかん水を行いましょう

・交配前後の保温管理
　→夜温 15℃以上（目標 15～18℃）
・開花３～５日前までにかん水
　→目安は約6リットル/株

③交配後は保温＋かん水で玉肥大

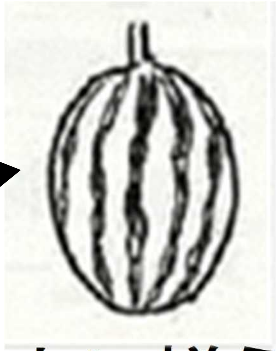
・交配後は、着果つる先側の換気量(開度)を少なめにして保温
（無理な蒸し込みは避けましょう）

・交配7～10日以内にかん水
→目安は6～8リットル/株

④鶏卵大頃に摘果し、肥大を促進

・摘果は、鶏卵大頃までに行います。

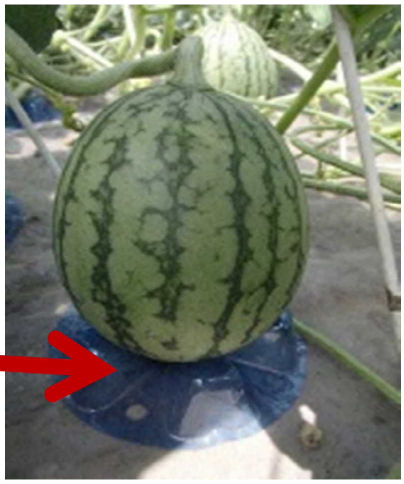
残す果実



・つるの太さが同程度
・果実が卵形のもの
・大きさ･開花が同程度
（同一株内で開花が3日以内に揃う）

※1つるに2果連続で交配してしまった時は、早めに1果にすること。
放置すると玉肥大が揃わなくなる。

⑤ソフトボール大になるまでに「すいかマット」を敷きましょう。



密閉栽培　交配前後の管理

天気予報を見ながら、作業遅れなく！

①トンネル除覆前

・開花5～7日前にかん水
　→雌花・雄花を充実させる。

②トンネル除覆後

・つるを広げ、配置する。
・間隔は大玉 20 ㎝、小玉 10～15 ㎝

③摘果

・株元の果実、大玉は低節位の果実を摘果
（マルチ上の果実は全て摘果）

④開花（交配）

・3～4番花に一斉着果
→同一株内で3日以内に開花・着果が揃うようにする
・着果数の目安
　大玉…2つるに1果
　小玉…1つるに1果
・着果棒は開花時に設置する。

⑤選果・摘果

・卵大～ソフトボール大に肥大する間に、果形を見極めて摘果

※つる先が細く草勢が弱い、または変形果が多い場合

→摘果し、着果位置を上げる

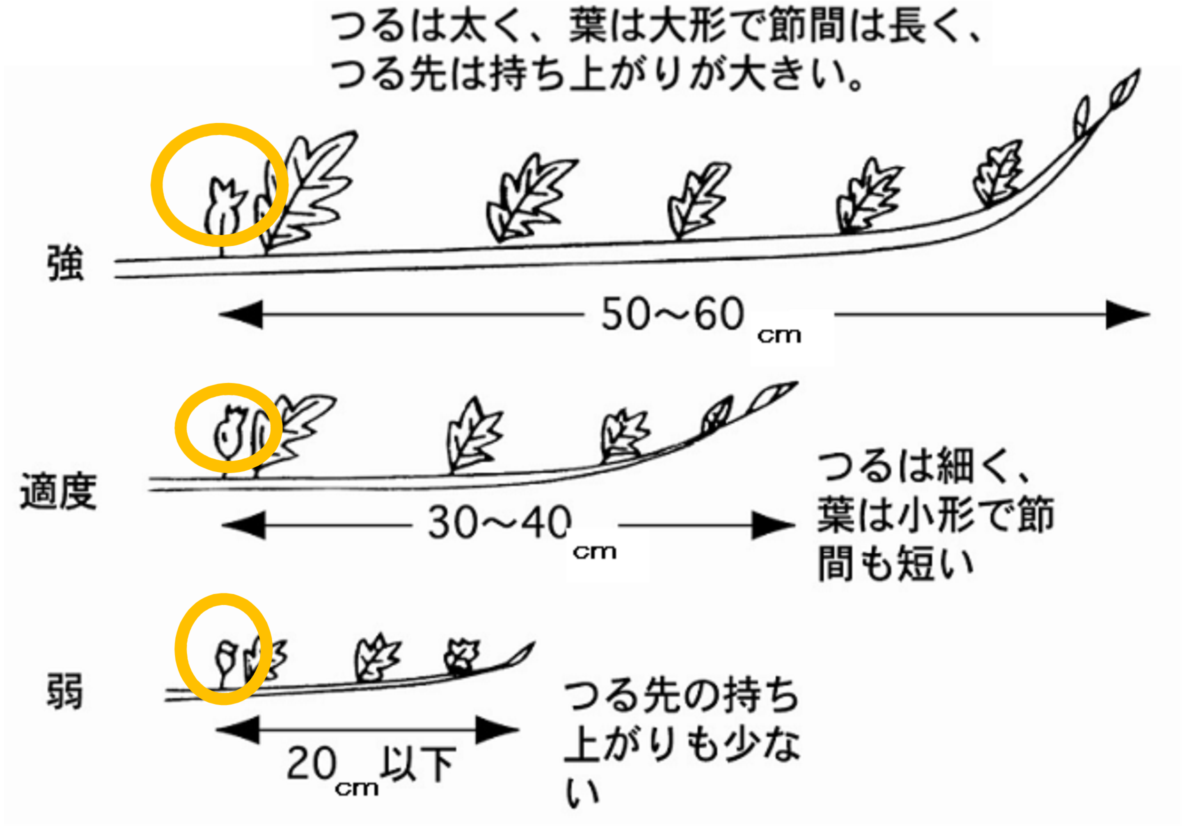
⑥マット敷き・かん水

・大玉はソフトボール大、小玉は交配10～14 日後までにすいかマットを敷く。

・かん水し、初期肥大を促す。

※草勢が低下している場合は、液肥で草勢回復させる。

【草勢の目安】 開花位置やつる先を観察



⑦収穫までの摘果作業

・大玉は更に着果してくるため、２回以上は巡回して摘果する。

・大玉は交配 30 日頃までに草勢を見て、着果数を調整する。

不明な点・指導が必要なときは下記担当まで連絡ください。
みなみ魚沼農業協同組合　園芸畜産課　関　　TEL：777-3180
南魚沼農業普及指導センター　近藤　　　　　TEL：772-3337